

TPP 閣僚会合終了後の甘利大臣記者会見の冒頭発言

日時：平成 26 年 5 月 20 日（火）17:10～（現地時間）

場所：シンガポール・シャングリラホテル 4 階「Orchid」

先ほど TPP 閣僚会合が終了した。今回の閣僚会合は、先日の日米協議の進展を踏まえ、各国間の二国間交渉を加速するとともに、閣僚間で交渉全体の進捗を評価することを狙いとして開催された。その目的は達成できたものと考えている。

市場アクセスについては、先月のオバマ大統領と安倍総理の協議を通じ日米の懸案の解決へ向けて道筋が特定された。それを受け、各国との二国間交渉が本格的に始まった。閣僚レベルで基本的方向性を共有できたことが大きな成果だと思っている。この成果を受け、今後、各国との二国間交渉をさらに加速させたい。

私とフロマン代表の会談においては、日米間の懸案の解決に向けて事務レベルで引き続きしっかりと折衝を続けることで合意し、さっそく今回の会合中に事務レベルの折衝が精力的に行われた。東京での会合以降、事務レベル交渉が止まっていた。それが今回の閣僚会合の期間中に再開され、精力的に折衝を行った。このシンガポールでの協議の続きを、来週木曜日に大江首席交渉官代理が訪米し、カトラー氏と行うことが決まっている。

全体会合では、市場アクセスだけでなく、ルール分野を含め交渉全体について現状を評価し、今後の進め方について閣僚間で共通認識を持つことができた。

交渉は最終局面にある。交渉妥結のためには、交渉官に明確なマンデートを与えて交渉に当たらせ、真に政治的決断が必要な困難な論点を絞り込むことが今後の大きな課題だ。

（以上）